

ほくげんこんエネルギー・コラム



「あなたに夢中」から普通のパートナーに ～再エネは等身大の姿で社会との調和をめざす時代へ～

あなたに夢中—アイドルは全てが許される

「あなたが好き とっても好き 私はあなたのすべてにいつも 夢中なの～♪」は、昭和のアイドル、キャンディーズの「あなたに夢中」の一節である。余談だが、キャンディーズに今なお「夢中」であることを自認なさっているのが石破総理である。決して歌や踊りが上手ではなかったが、それはそれで、総理をはじめファンの中には、微笑ましい姿として生き続けているのである。

世界的アイドルになった再エネ

さて、近年、エネルギー界の世界的アイドルは、再生可能エネルギー（再エネ）である。そもそも名前が美しい。資源を浪費せず、クリーンなエネルギーが絶え間なく湧き出るような響きがある。技術革新によって価格はどんどん下がり、火力や原子力に取って代わる日も近いと、多くの人が思ったはずだ。

盲目の恋の終わり

「盲目の恋」を捧げ続けられる雲の上のアイドルとは異なり、エネルギーは設備の建設とともに、リアルなお付き合いが始まる。そうになると、思いがけぬ一面が見えてくるのである。

例えば、自然に優しいはずの太陽光パネルや風車による、森林や湿原などの自然破壊、景観の悪化や騒音などの問題が目立ってきた。このため、再エネの立地を規制する条例を持つ自治体は300を超える*1。価格は安くなると思ったら、インフレで風力発電の建設費は上昇し、事業者の撤退が目立つ。不安定な電力の利用には対策も必要だ。そして再エネ賦課金の負担は、すでに電気料金の10%を優に超えた*2。こうしたこともあり、再エネの導入速度は、鈍化の傾向である。

太陽光や風力は確かに無尽蔵だが、密度が著しく低く、不安定である。そのため、発電には巨大な装置が必要であるとともに、安定した電気として使うには、超大容量の蓄電装置や送電網の整備に莫大な費用を要するのである。

社会との対話で普通のパートナーに

様々な問題もみえてきたが、カーボンニュートラルを目指す私たちは、再エネとお別れする訳にはいかない。「夢中」な関係から普通のパートナーとしてお付き合いする時が来ているのだ。これは、かつて大気汚染の原因となった火力、大きな事故が発生した原子力などがいずれも通ってきた道である。火力も原子力も、その後、様々な対策を施しながら、今も社会との対話を重ねているのである。

いかに地球にとって良いことであっても、設備ができることで影響を受けるのは、近くで日常生活を営む方々である。エネルギー事業者は、こうした方々と謙虚に対話続けることを止めることがあってはならない。

一方、社会全体としては、完璧なエネルギーなど存在しないことを改めて認識し、各エネルギーの特性を生かした導入の在り方を、いま一度、議論するときではないだろうか。

*1 野村総研「令和6年度地方公共団体における地球温暖化対策の推進に関する法律施行状況調査」
*2 北陸電力の2025年10月分標準家庭モデル料金で約13%



ヒロ・ミズカミ 代表
水上 裕康 氏

電力取引・発電用燃料取引のコンサルタント。
クライアントの外資系投資銀行とともに、市場リスク管理を中心とした電力・燃料取引を電力会社に紹介。そのかわり、電力を中心としたエネルギー関係情報の発信を続けている。
エネルギーフォーラム誌等に寄稿。

一橋大学商学部卒、米国ジョージタウン大学MBA（経営学修士）
電力会社で通算16年間燃料業務を担当
2020年（株）ヒロ・ミズカミ設立